

# (仮称) 第3次都心まちづくり計画検討会

## <第一部会>

# 第2回 居心地が良く歩きたくなる都心まちづくり検討部会

2024年12月4日

札幌市 都心まちづくり推進室



## 1 これまでの検討会・検討部会の振り返り P.4~12

- (1) 検討体制
- (2) 見直しのスケジュール
- (3) 第1回検討部会での主な意見
- (4) 第2回検討会の概要
- (5) 本検討部会における検討内容の整理

## 2 目標の具体化 P.13~14

- (1) 四季を通じて「居心地が良く歩きたくなる都心」の具体化
- (2) それぞれの空間において目指す姿

## 3 目標の実現に向けた基本方針等（案） P.15~19

- (1) 基本方針等の全体構成（案）
- (2) 重点戦略、取組の方向（案）
- (3) 重点戦略における課題認識と論点

論点1

## 4 アクションレイヤーの検討に向けた視点 P.20~23

- (1) 自動車交通からみた道路機能の分類事例
- (2) 歩行者から見た道路機能の分類事例
- (3) 歩行者から見た道路機能の分類イメージ
- (4) 事例を踏まえた今後の検討の視点

論点2

## 本日、ご議論いただきたいこと

【論点1】 目標、基本方針、重点戦略等について・・・P.13～19

- ① 重点戦略における課題認識と論点への意見(P.19)
- ② その他、全般への意見(特に札幌都心特有の視点)

【論点2】 アクションレイヤーの検討に向けた視点について・・・P.20～23

- ① アクションレイヤーの検討に向けた課題認識と論点への意見(P.23)
- ② その他、全般への意見(特に札幌都心特有の視点)

# 1 これまでの検討会・検討部会の振り返り

## (1) 検討体制

### (仮称) 第3次都心まちづくり計画の検討体制

- 現行の「第2次都心まちづくり計画」と「都心エネルギーマスタープラン」を一体的に見直しを行うための有識者会議として「(仮称) 第3次都心まちづくり計画検討会」を設置。
- 「居心地が良く歩きたくなる都心まちづくり」と「都心の脱炭素化に向けたエネルギー施策」を次期計画の深掘りすべき論点に位置づけ、**2つの部会を設置。**

“居心地が良く歩きたくなる都心まちづくり”に関する事項については、**<第一部会>**で検討を進める

### (仮称) 第3次都心まちづくり計画検討会

#### <第一部会> 居心地が良く歩きたくなる 都心まちづくり検討部会

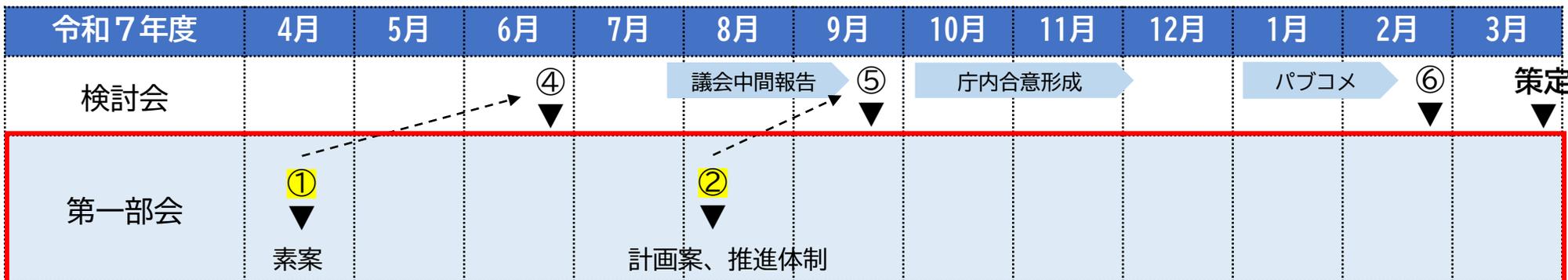
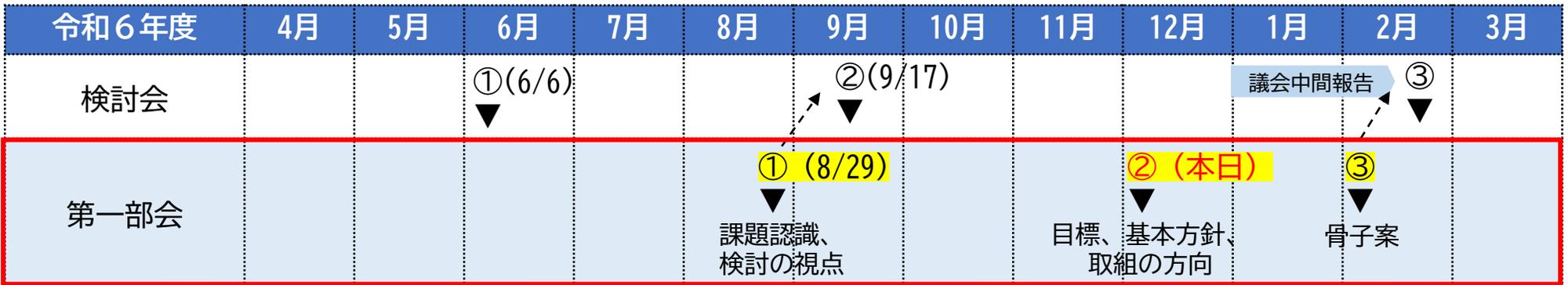
- 札幌の顔である都心ならではの都市文化を育み、多様性のあるまちづくりを進め、都市生活の質の向上を図るには、**官民が持つ様々なパブリックスペース**を一体的に捉え、**人と人が出会い、滞留し、交流することができる活用しやすい空間**へと変えていくことが必要。
- 様々な活動を支える**交通機能の維持向上**を図りつつ、**積雪寒冷地における居心地が良く歩きたくなるまちづくりを進めるための方針等**を検討。

#### <第二部会> 都心の脱炭素化に向けた エネルギー施策検討部会

- 世界的な**脱炭素化**の潮流を捉え、国内外に札幌の価値を発信していくためには、社会・経済活動の中心地である都心において、今後のまちの更新に合わせ、**継続した先導的な取組**が求められる。
- エネルギープランに沿ったこれまでの取組を礎に、**再エネ電力の導入拡大方策**や**既存エネルギーネットワークを受け皿とした将来的なエネルギー転換、災害対策**等を、計画体系の整理と併せ検討。

# 1 これまでの検討会・検討部会の振り返り

## (2) 見直しのスケジュール



部会の検討テーマ (案)		
令和6年度	第1回	課題認識、検討の視点
	第2回	目標、基本方針、取組の方向
	第3回	骨子案
令和7年度	第1回	素案
	第2回	計画案、推進体制

# 1 これまでの検討会・検討部会の振り返り

## (3) 第1回検討部会での主な意見

(黄色マーカー：本日の論点に関連が深い意見)

項目	課題認識	検討の視点	各委員からの意見
<p>札幌都心ならではの魅力的な「ストリートの形成」(ハード)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 格子状の街路網は街並みが単調になりがちであることから、ストリートの魅力や個性を高めていくことが重要</li> <li>● 季節や天候、目的等によって選択性が高く、多様性に富み、安全・快適な移動経路が必要</li> <li>● 積雪寒冷地特有の地下での移動ニーズと地上部の賑わいの両立が重要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 格子状の街路網における見通しの良さを生かした通りの景観形成や交差点における辻空間の魅力付け(線と点のデザイン)</li> <li>● 沿道の土地利用と一体となった街路空間の形成</li> <li>● 路線や区間によって変化のある空間の形成</li> <li>● 各エリアをつなぐ回遊、賑わい、交流の基軸となる象徴的なストリートの形成</li> <li>● 沿道の土地利用とも連動した地上・地下の重層的な歩行者ネットワークの形成</li> <li>● 積雪期の魅力と賑わいも考慮した札幌ならではのストリートの形成</li> </ul>	<p>魅力的なストリートの形成について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 居心地が良い景観があり、変化が感じられることで様々な行動が生まれる。</li> <li>● 街区のサイズが大きいことも考慮するとよい。</li> <li>● 場所や通りの性格を分けて考えていくのがよい。</li> <li>● どの場所でするのか、場所の特徴を踏まえた使い方を考えたほうがよい。</li> <li>● 都心に来る理由(商業施設、仕事など)を踏まえて、建物用途のあり方も同時に考えていく必要がある。</li> <li>● 個性豊かな小規模な開発に対しても制度上の支援があるとよい。</li> <li>● 耳から入る情報で歩いて楽しいまちづくりを考えてもよいかもしれない。</li> <li>● まちなかのみどりが意外と少なく、緑視率が低い。緑陰が大事。</li> <li>● 通勤や買い物途中に季節や時間の変化を感じられる視点も考えたほうがよい。</li> <li>● 居心地が良いというのは、道路だけでは実現できない。空間(建築的な要素)が必要。</li> <li>● 官と民が境界に対して相互に乗り入れることが最終的な「居心地が良く歩きたくなるまちづくり」の方向性かと思う。</li> </ul>
<p>都心のまちづくりを支える「交通機能の維持・向上」(ハード)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● それぞれの交通機能(※)を確保しつつ、限られた道路空間等を全体として効果的、効率的に活用することが重要</li> <li>※交通機能：自転車、荷捌き、公共交通(バス、タクシー等)、一般交通、駐車施設等</li> <li>● 北海道新幹線札幌延伸、新たなバスターミナルや都心アクセス道路の整備、新たな公共交通システムの導入などの将来の交通環境の変化を踏まえることが重要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 各路線における交通機能と滞留機能のバランスや面的な機能分担</li> <li>● 都市活動を支える、荷さばきや人々の乗降などの空間の確保</li> <li>● 都心を目的地としない通過交通の分散等</li> <li>● 新幹線駅からの回遊動線の充実</li> <li>● 都心部の道路交通全体の機能分担</li> <li>● 既存の公共交通との接続の円滑化</li> </ul>	<p>交通機能の維持・向上について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 観光客が運転する視点でわかりやすいサインなどが必要。</li> <li>● バリアフリーの視点も重要</li> <li>● 将来的には新技術の活用による交通の円滑化も考えられる。</li> <li>● タクシーやバスなどの乗降場の確保も重要</li> <li>● 都心にアクセスする手段としてのバスの利便性を考えると定時運行が重要であり、渋滞対策が必要</li> <li>● 駐車場のあり方も考えていく必要がある。</li> <li>● 商品が届くのは物流の機能があってこそ。荷捌きの機能の確保も必要。</li> <li>● 車道を少なくしていく潮流もあるが、通行もしっかりと確保していく必要がある。</li> </ul>

# 1 これまでの検討会・検討部会の振り返り

## (3) 第1回検討部会での主な意見

(黄色マーカー：本日の論点に特に関連するもの)

項目	課題認識	検討の視点	各委員からのご意見
<p>歩きたくなる環境を向上させる「戦略的なマネジメント」(ソフト)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共的空間(※)の役割を幅広くとらえ、多様な活動や魅力的なコンテンツの創出により、賑わい・交流を促進することが重要 ※道路、公園、河川、公開空地等</li> <li>公共的空間において冬季の利用が落ち込む傾向があるが、雪という札幌の個性を生かすうえでも冬の利活用を促すことが重要</li> <li>居心地が良く歩きたくなる都心まちづくりの推進による効果を関連分野にも波及させることが重要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>限られた道路空間においては、利用実態を踏まえた効果的、効率的な運用が重要</li> <li>エリアや建物等のコンセプトに合った多様な公共空間の利活用の促進</li> <li>柔軟かつ持続可能な利活用を実現する仕組みや体制の構築             <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 規制緩和やルールの明確化</li> <li>✓ プレイヤーの発掘・育成</li> <li>✓ 運営主体の資金確保</li> <li>✓ 市内外への積極的な情報発信など</li> </ul> </li> <li>冬季の屋外空間や地上・地下の屋内空間の柔軟な利活用</li> <li>時間別のニーズに応じたタイムシェアなどの柔軟な空間利用を実現する仕組みの構築</li> <li>健康(ウェルネス)、脱炭素(エネルギー)等の取組との連携</li> </ul>	<p>戦略的なマネジメントについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>他都市の事例でも単にハード整備だけではなく、<b>プレイスメイキング(ソフト)の視点</b>でも取組が進められている。</li> <li>公園などで<b>人と人との交流</b>が生まれるようなちょっとした仕掛けがあるとよい。</li> <li>パブリックを自分事として捉える若者を育成するための教育の視点もあるとよい。</li> <li>清掃等の活動に市民が積極的に参加するよう促すような動きも必要だと思う。</li> <li>植樹の管理や広告なども含めて街のイメージアップを図ることが重要だと思う。</li> <li>公開空地を有効活用できるような<b>仕組みづくり</b>が重要だと思う。(例えば、簡単な許可で<b>パフォーマンスができる</b>など)</li> </ul>

### ■全般的なご意見

意義・目的について	全体的な視点について	現状等の整理・評価について
<ul style="list-style-type: none"> <li>実現したいこと(アウトカム)を明確にすると良い。</li> <li>誰にとつての歩きたくなるまちづくりなのか、明確にして検討を進めるのがよい。</li> <li>住んでいる人にとって<b>楽しいもの</b>が、観光に来ている人も楽しいということが根本としてある。</li> <li><b>どういった活動(必要活動、任意活動、社会活動)</b>を生み出していきたいのか考えるべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>快適な歩行空間を整備するだけではなく、<b>滞留空間や公共交通も必要</b>であり、深い概念と考えられる。</li> <li><b>「居心地が良く」と「歩きたくなる」</b>をしっかりと分けて考えると良い。</li> <li>空間の活用だけではなく、<b>交通、制度、マネジメント</b>などの視点でバランスよく考えていくことが重要。</li> <li><b>回遊性の向上</b>の視点や<b>季節による違い</b>を考慮して考えていくことが重要。</li> </ul>	<p>その他の視点について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>都心には誰がどうやってアクセスしているのか明確にしたうえで考えると良い。</li> <li>今までの取組についてしっかり評価した方が良い。</li> <li>まちづくりGXの要素も踏まえるとよい。</li> <li><b>まちづくりと公共交通</b>をセットで考えていくことも考えるとよい。</li> </ul>

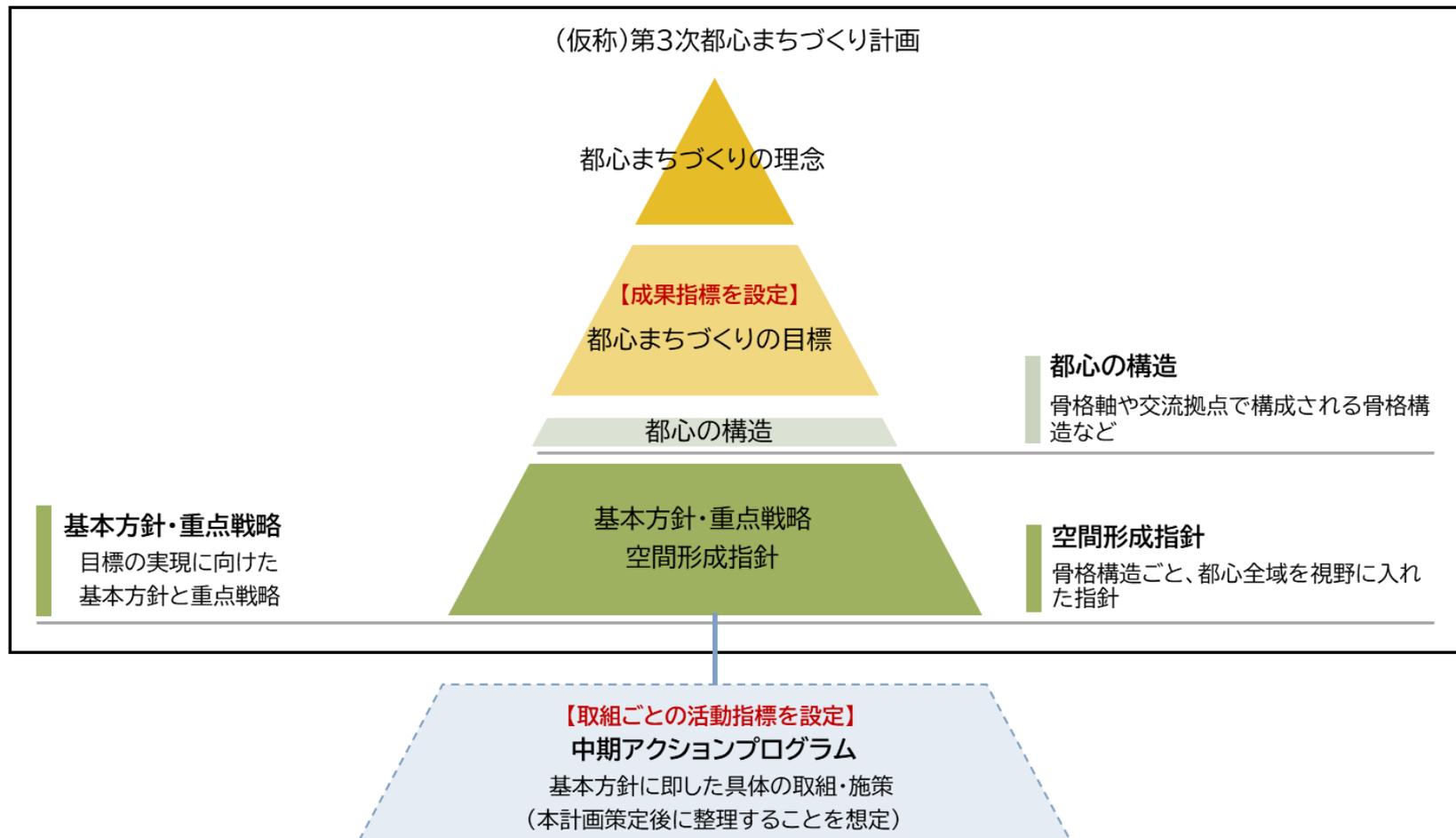
# 1 これまでの検討会・検討部会の振り返り

## (4) 第2回検討会の概要～計画全体の構成イメージ図

○ 本検討部会では、下記の計画構成イメージを踏まえて検討を進めます。（詳細は次頁以降）

（第2回検討会資料より抜粋）

- ✓ 本計画では、まちづくりの理念・目標、目標実現に向けた基本方針及び重点戦略を定めます。また、まちづくりを支える都心の構造を位置付けるとともに、骨格構造ごと及び都心全域を視野に入れた空間形成の指針を定めます。
- ✓ なお、具体的取組・施策については、中期アクションプログラムにて位置付けることを想定しています。

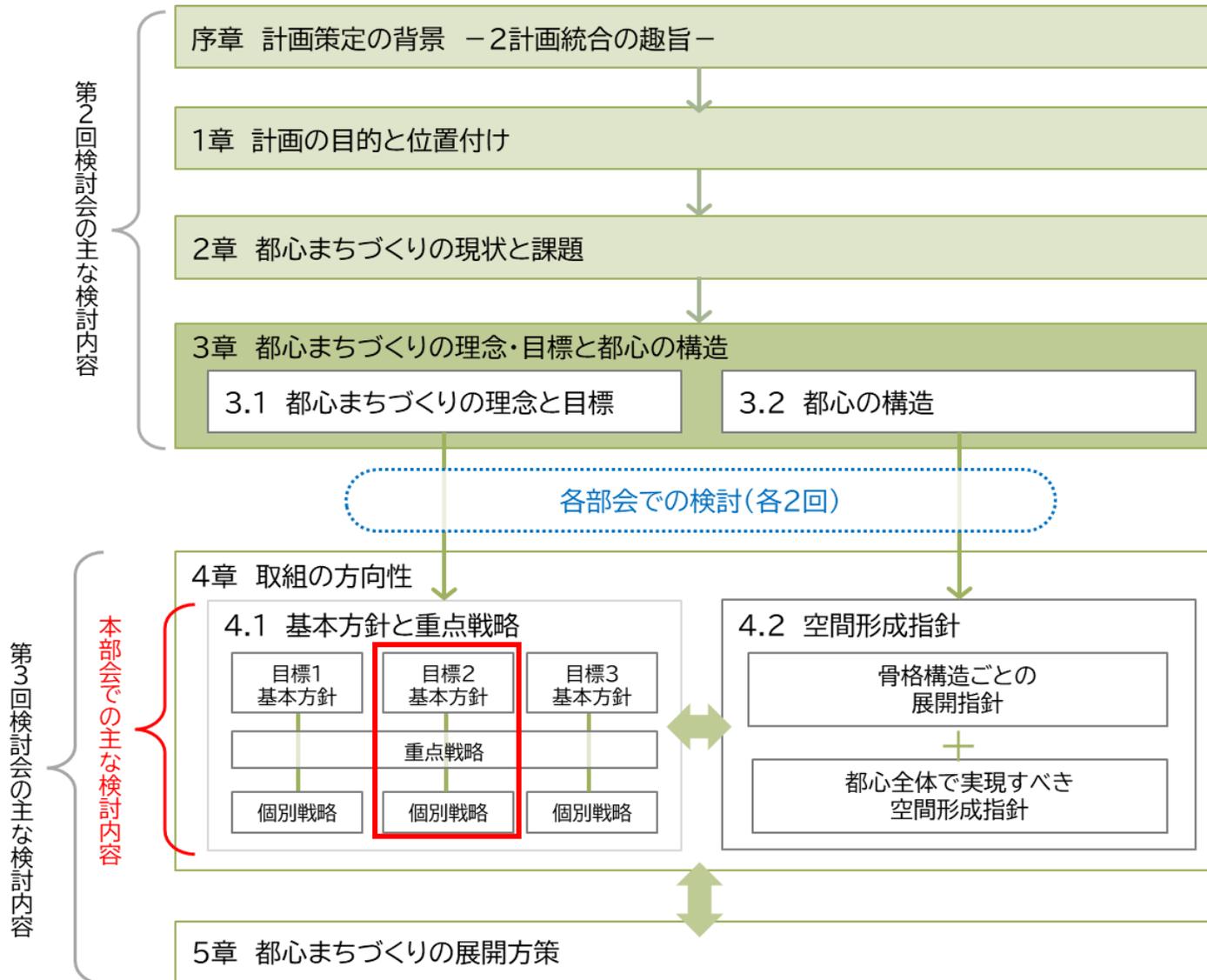


# 1 これまでの検討会・検討部会の振り返り

## (4) 第2回検討会の概要～計画構成案と検討の進め方

○ 本検討部会では、「居心地が良く歩きたくなる都心まちづくり」推進の視点での目標や基本方針等について検討します。

(第2回検討会資料より抜粋)



# 1 これまでの検討会・検討部会の振り返り

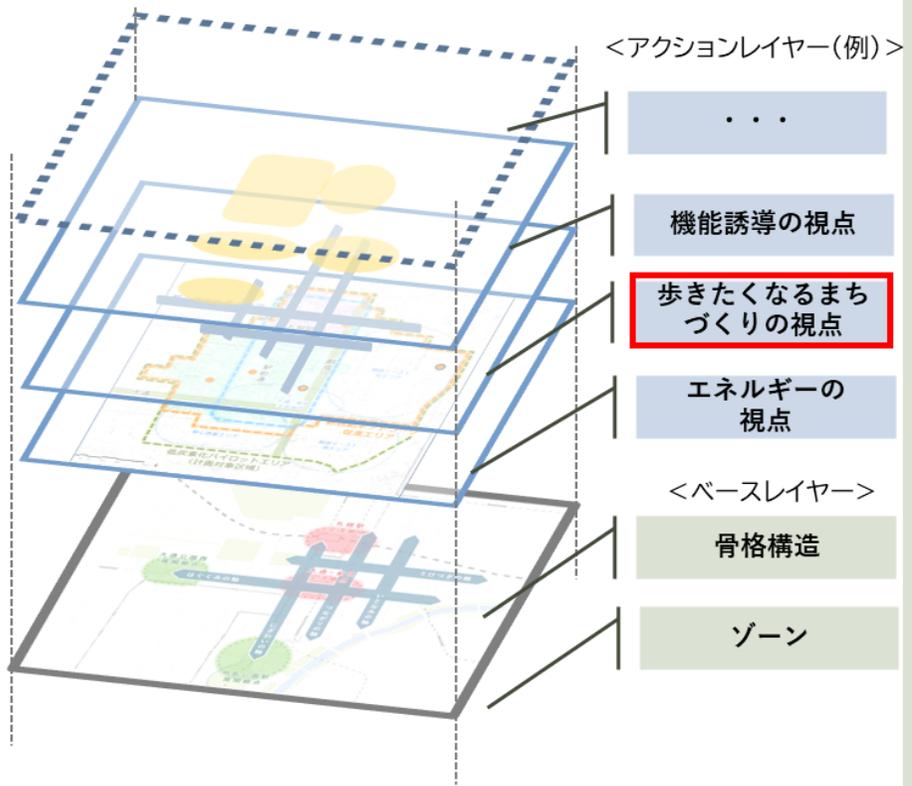
## (4) 第2回検討会の概要～都心の構造（案）

○ 本検討部会では、「居心地が良く歩きたくなるまちづくり」推進の視点でアクションレイヤーの検討を行います。（詳細は後述）

(第2回検討会資料より抜粋)

### 構造の要素(案)

- ✓骨格構造と、地域特性を踏まえたゾーンを、ベースレイヤーとして設定します。
- ✓従来のターゲット・エリアという位置づけではなく、戦略ごとに重点的に展開するエリアを、アクションレイヤーとして重ねていきます。



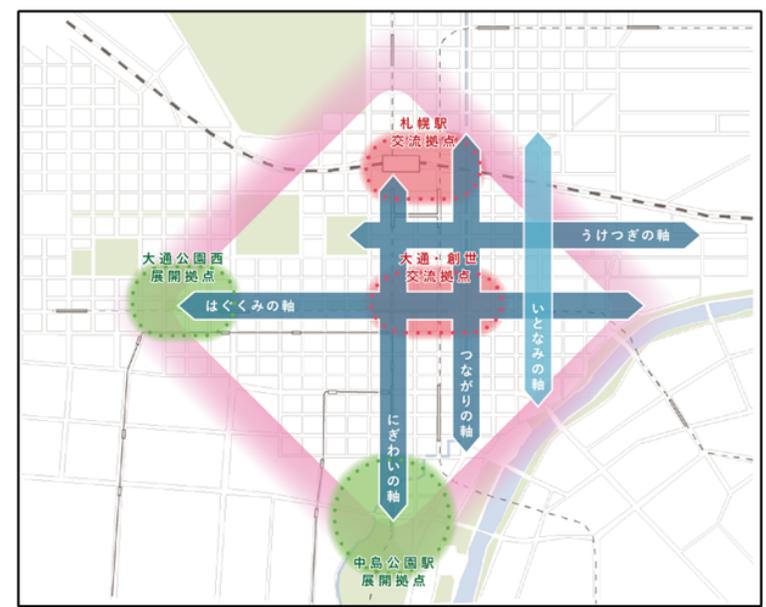
### 骨格構造(案)

#### 【軸】 4骨格軸-1展開軸を継承

現行計画を継承し、4つの骨格軸、1つの展開軸を設定します。

#### 【拠点】 2交流拠点+2展開拠点の設定

現行計画の2交流拠点に加えて、地域特性を活かしたまちづくりを重点的に展開し、**新たな活動・交流を育む「展開拠点」として2拠点を追加**で設定します。



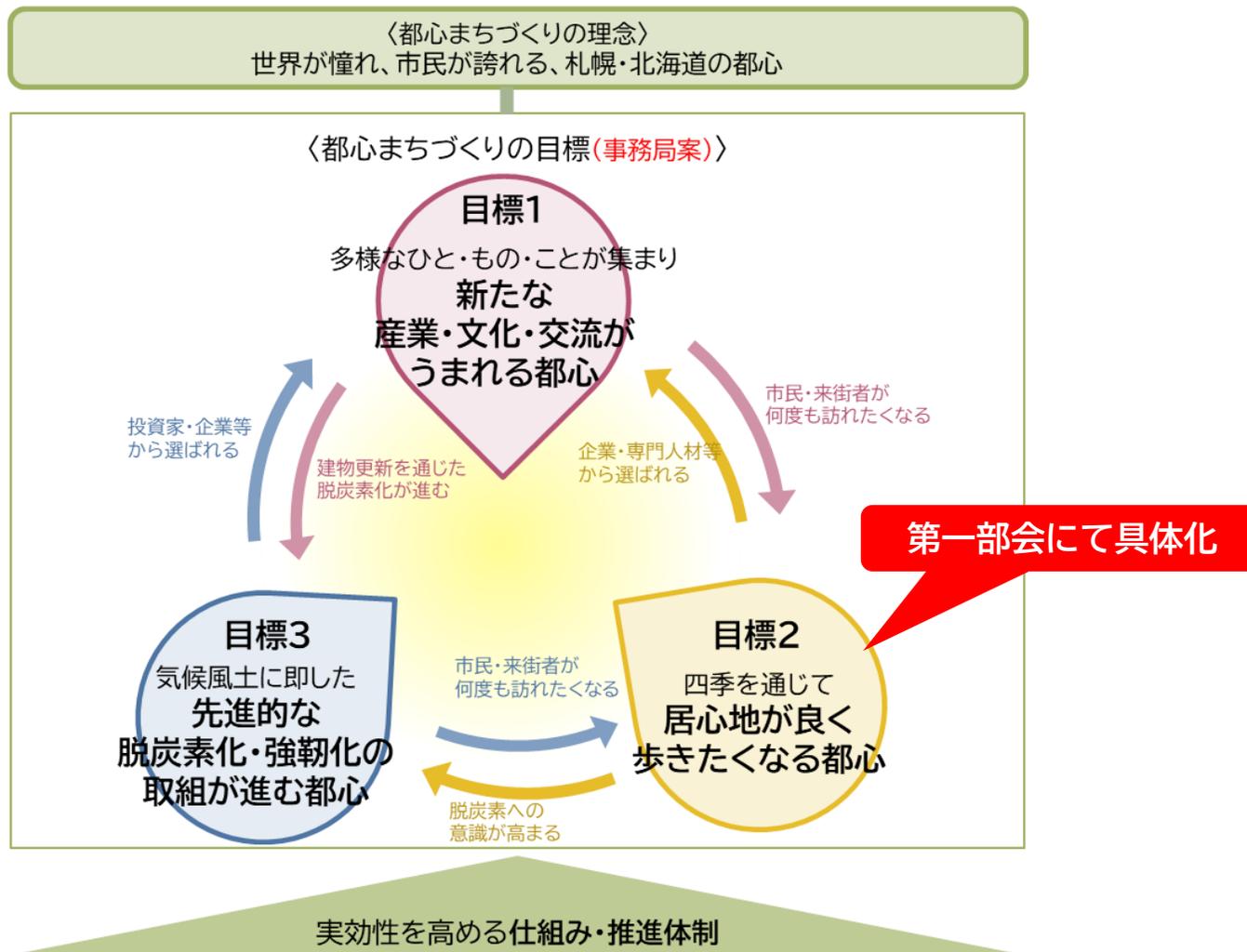
# 1 これまでの検討会・検討部会の振り返り

## (4) 第2回検討会の概要～都心まちづくりの理念と目標（案）

○ 本検討部会では、目標2「四季を通じて居心地が良く歩きたくなる都心」の具体化に向けて検討します。

(第2回検討会資料より抜粋)

✓ 「都心まちづくりの理念」の実現に向けた目標を定め、各目標の関連性を意識しながら、札幌・北海道の魅力と活力の先導・発信を目指します。また、これらの目標を達成するため、実効性を高める仕組み・推進体制の構築を併せて推進します。



# 1 これまでの検討会・検討部会の振り返り

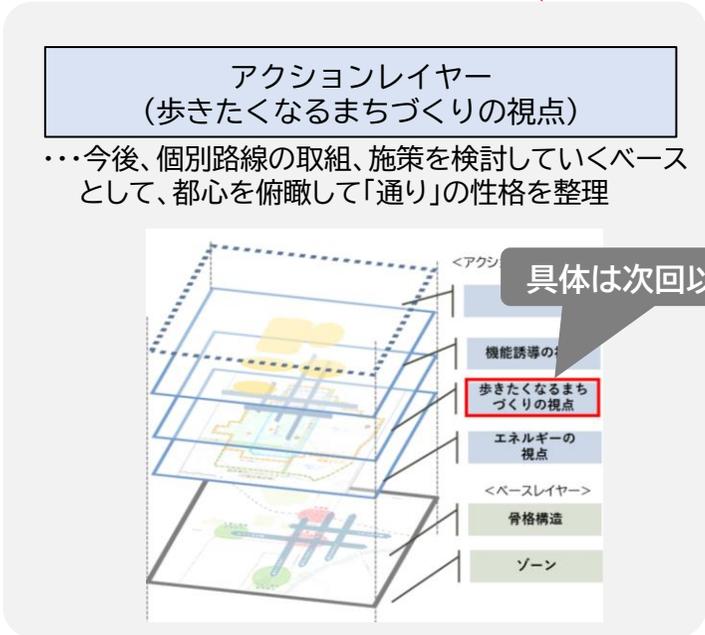
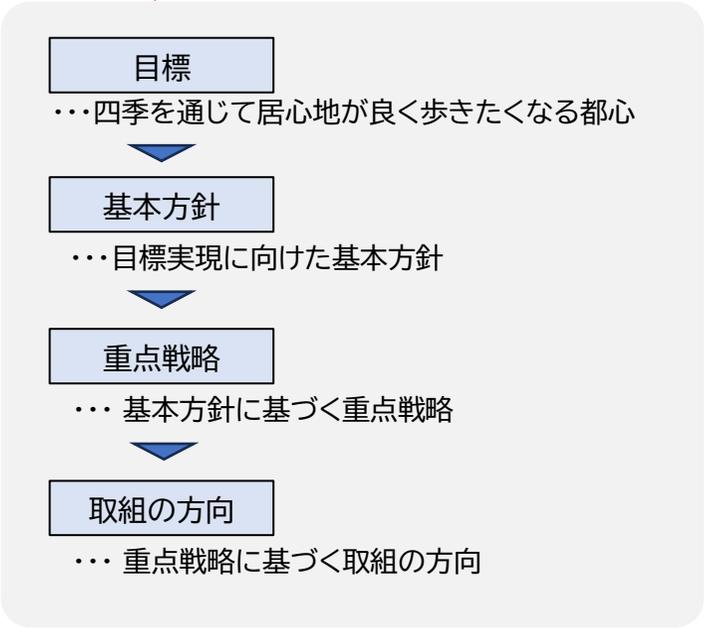
## (5) 本検討部会における検討内容の整理

○ 検討会での議論 (P.8~11) を踏まえ、本検討部会における検討内容と本日の論点を下記のとおり整理します。

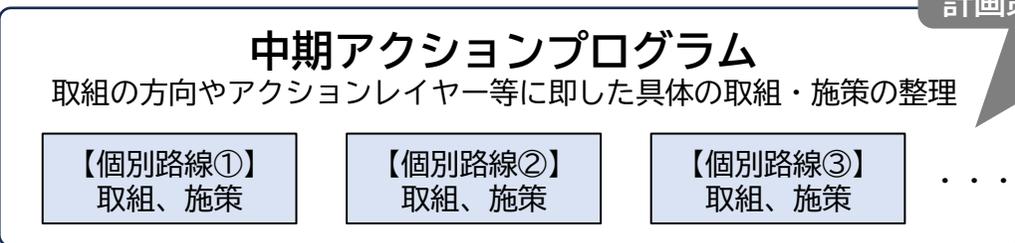
**【論点1】 P.13~19**  
目標、基本方針、重点戦略等

**【論点2】 P.20~23**  
今後の検討に向けた視点

### 第3次都心まちづくり計画（本検討部会にて議論）



個別路線の取組や施策については、計画策定後に整理



## 2 目標の具体化

### (1) 四季を通じて「居心地が良く歩きたくなる都心」の具体化

【目標】 四季を通じて「居心地が良く歩きたくなる都心」

- ✓【四季を通じて】 ➡ 春季・夏季・秋季はもとより、積雪のある冬季においても、
- ✓【居心地が良く】 ➡ 訪れる人それぞれが安心・快適に過ごせ、交流できる居場所があり、
- ✓【歩きたくなる】 ➡ 歩きやすく、街にみどりやにぎわい、変化が感じられ、自然に回遊し楽しめる



- ✓ 都心における様々な活動を支える交通環境の構築



【写真】冬季特有の景観や賑わい(北3条広場)



【写真】道路空間における滞留・賑わい・交流(さっぽろシャワー通り)



【写真】みどり豊かな街並み(バルセロナ市)

## 2 目標の具体化

### (2) それぞれの空間において目指す姿

○官民が持つ様々なパブリックスペースにおいて、空間の特性を活かした多様な活動が生まれていくことを目指し、官民連携により、空間の整備、設えの工夫や活動しやすい仕組みの構築を目指す。

#### 広場等（屋外）

- ・みどりやゆとりが感じられ、市民が様々な活動ができる空間の創出
- ・冬でも滞在したくなる魅力的な景観形成や目的地となるイベント開催等による賑わいの創出

##### 【活動イメージ】

- ・市民のイベント参加や参加者間の交流、パフォーマンス、子どもの遊ぶ姿、観光客の写真撮影 など



【写真】大通公園(冬)

#### 表通り

- ・街路樹や沿道のみどりにより、四季の彩りが感じられる滞在空間の創出
- ・安全・安心な歩行や、公共交通に円滑に乗降できる空間の創出 など

##### 【活動イメージ】

- ・街並みを感じながらの散策、オープンカフェやベンチでの休憩、風景の鑑賞、都心内の円滑な移動など



【写真】南1条通(社会実験時)

#### 中通り

- ・各路線に求められるニーズに応じた効果的・効率的な空間の運用（荷さばきと人の空間の共存など）
- ・沿道店舗と連携した魅力化 など

##### 【活動イメージ】

- ・沿道施設の荷捌き、買い物客の休憩など



【写真】シャワー通り(荷捌き)

#### 広場等（屋内）

##### ○地下広場

- ・屋外空間の日常的な利活用が難しい冬期間におけるエリアの賑わい創出
- ・広場的空間におけるイベント開催等の活用

##### ○地下街

- ・通路沿いの店舗、点在する広場での滞在やイベント等による賑わいの創出

##### 【活動イメージ】

- ・冬期間や悪天候時のウォーキング、店舗やマルシェ等での買い物・出店者との交流、広場での自己表現活動（文化・音楽等）

##### ○公開空地等

- ・季節や天候を問わず、公共と民間敷地のシームレスな賑わいや憩いの空間の充実
- ・エリアや施設の特性を活かした、個性的かつ柔軟な利活用

##### 【活動イメージ】

- ・同僚や友人との待ち合わせ、オフィスワーカーの休憩、偶然見つけた地域や施設のイベントへの参加や交流など



【写真】チ・カ・ホの広場空間



【写真】地下街



【写真】D-LIFEPLACE札幌

#### 地下通路

- ・四季を通じた安全・安心な歩行環境の充実や回遊性の向上

##### 【活動イメージ】

- ・通学や通勤も含めた来街者の安全・安心かつ円滑な移動、接続ビルへのアクセスや地上・地下の移動など



【写真】北8西1地下通路

### 3 目標の実現に向けた基本方針等（案）

#### (1) 基本方針等の全体構成（案）

【目標】 四季を通じて「居心地が良く歩きたくなる都心」

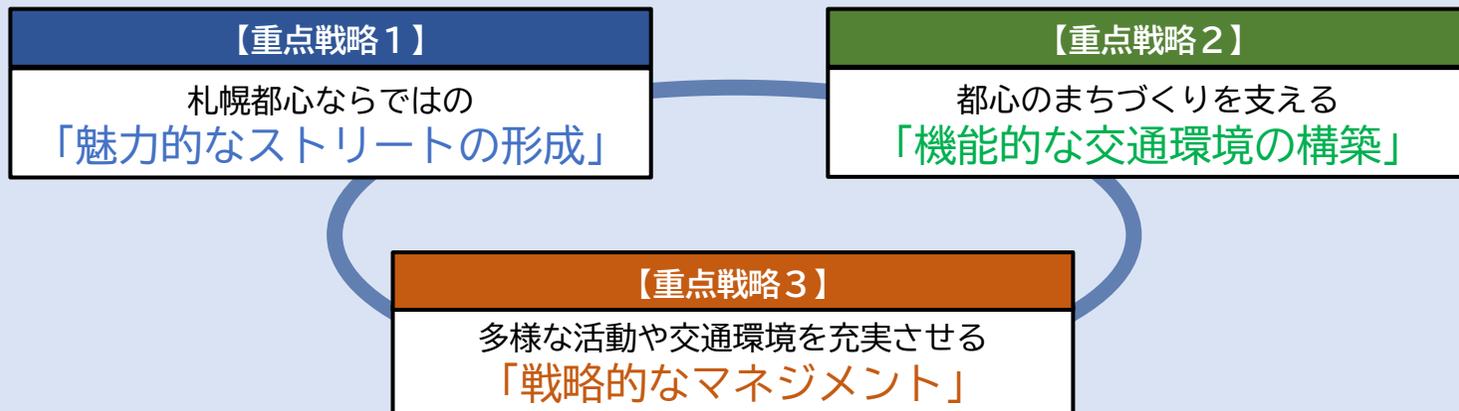
##### 【基本方針】

##### ◆ストリート（※）における四季を通じた多様な活動の創出 ※街路のみならず沿道等も含む

- ・積雪寒冷地の特性を踏まえつつ、官民が持つ様々なパブリックスペース（公共的空間）を一体的に捉え、人と人の出会い、滞留、交流、自己表現などの「多様な活動が生まれる魅力的な空間」に改変するとともに、空間を「柔軟に活用できる仕組み」を構築する。

##### ◆様々な活動を支える安全・安心かつ円滑な交通環境の構築

- ・都心における人やモノの「移動環境」、人々の乗降や荷さばきなどの沿道への「アクセス環境」の向上を図り、空間を「効果的・効率的に運用できる仕組み」を構築する。



重点戦略を実現させる取組の方向（次頁以降）

### 3 目標の実現に向けた基本方針等（案）

#### (2) 重点戦略、取組の方向（案）

##### 【重点戦略1】

##### 札幌都心ならではの「魅力的なストリートの形成」

1-①

格子状の街路網の特徴を生かした、ストリートの魅力や個性の向上

取組の  
方向

- ◆ 見通しの良さを生かした通りの景観形成や交差点における辻空間の魅力の向上（線と点のデザイン）  
（取組例）
  - ・ 遠景、奥行き感、丁字路のアイストップ等を生かした空間デザインの検討
  - ・ エリアや路線の特徴を踏まえた交差点の特徴付け（緑化、ゆとりのある空間など）
  - ・ 路線や区間によって変化のある空間形成（沿道も含めた緑化、舗装材等によるデザインの工夫など）
- ◆ 街路と沿道が一体となった魅力的な街路空間の形成  
（取組例）
  - ・ 既存の沿道状況や建替え等に合わせた街路空間の検討（必要に応じて道路空間再編の検討など）
  - ・ 沿道と道路を一体的に捉えた空間のデザイン（沿道建物低層階のガラス張り化など）
  - ・ 沿道の路面店等による道路空間の一体的な利用（オープンカフェ、緑化など）
- ◆ 回遊の基軸となる象徴的なストリートの形成  
（取組例）
  - ・ 骨格軸などの主要な通りの更なる魅力化
  - ・ エリアのまちづくり活動や開発の機運などを踏まえた魅力的なストリートの形成

1-②

選択性が高く、多様性に富み、みどり豊かな、回遊したくなるストリートの形成

取組の  
方向

- ◆ 季節や天候、目的等による選択性が高い、滞在空間や回遊動線の創出  
（取組例）
  - ・ 屋外環境に左右されにくい屋内や半屋内の滞在空間の創出（地下、公開空地等）
  - ・ 公園、道路や民間敷地内におけるみどり豊かな空間の充実
  - ・ 界索性や奥行きを出すための中通りの魅力化や敷地内貫通通路の整備誘導
- ◆ パブリックスペースにおける滞留や交流などの多様な活動ができる空間の創出  
（取組例）
  - ・ 立ち止まる、座る、食べる、遊ぶ、買い物をする、パフォーマンスをするなどの多様な活動が行える空間の整備

1-③

積雪寒冷地ならではの屋外空間における魅力的な景観形成や賑わいの創出

取組の  
方向

- ◆ 積雪期の魅力と賑わいも考慮した札幌都心ならではのストリートの形成  
（取組例）
  - ・ 公共空間等における冬の魅力的な街並みの創出（雪や光などを活かした空間演出）
  - ・ 街並みを眺められる空間の充実（沿道のカフェ、公開空地など）

# 3 目標の実現に向けた基本方針等（案）

## (2) 重点戦略、取組の方向（案）

### 【重点戦略2】

### 都心のまちづくりを支える「機能的な交通環境の構築」

2-①

#### 都心に必要な交通機能（※1）やアクセス環境（※2）の確保

※1 交通機能：ヒトやモノが移動するための機能（徒歩、自転車、公共交通、乗用車、貨物車等による目的地までの移動。駐車施設等も含む）  
 ※2 アクセス環境：人々の乗降やに荷捌きなどの沿道にアクセスするための機能

取組の  
方向

- ◆ 各路線相互の機能分担と各路線における必要な機能の配置  
 (取組例)  
 ・ 各エリアにおける必要な機能の把握、各路線における必要な機能の配置
- ◆ 都市活動を支える、荷さばきや人々の乗降などの空間の確保  
 (取組例)  
 ・ 民間開発との連携による交通施設の整備（共同荷さばき場、観光バス乗降場等）  
 ・ 路上荷さばき場、バス停、タクシー乗降場などの必要な空間の確保  
 ・ 荷さばきの効率化に資する取組の誘導（大型施設における館内物流体制の構築、荷さばき規制緩和区間の適正利用促進など）  
 ・ 既存の駐車施設の利用分散等による混雑の緩和
- ◆ 都心を目的地としない通過交通の分散等  
 (取組例)  
 ・ 交通機能が重視される路線の交通円滑化（交差点改良等）

2-②

#### 四季を通じて快適に移動できる環境の充実

取組の  
方向

- ◆ 安全・安心かつ円滑な歩行者動線の充実  
 (取組例)  
 ・ 北海道新幹線札幌延伸を見据えた、駅から都心各所への移動経路の充実  
 ・ 歩行者動線の更なるバリアフリー化（官民連携による地下歩行ネットワークの拡充、地上・地下動線の充実など）
- ◆ 広域交通結節点と都心内の移動手段との接続の円滑化  
 (取組例)  
 ・ 各交通との接続環境の充実（地下鉄、鉄道（JR）、バス、タクシー、新たな公共交通、シェアサイクルなど）  
 ・ 情報提供の充実（案内サイン、ICTを活用した情報発信など）
- ◆ 公共交通などの待合い、休憩環境の充実  
 (取組例)  
 ・ 沿道施設への待合いスペースの整備誘導など  
 ・ 移動途中における屋外の暑さや寒さをしのぎ、休憩できる空間の充実（クーリングシェルターなど）

# 3 目標の実現に向けた基本方針等（案）

## (2) 重点戦略、取組の方向（案）

【重点戦略3】		多様な活動や交通環境を充実させる「戦略的なマネジメント」
3-①		パブリックスペースにおける多様な活動や魅力的なコンテンツの創出による賑わい・交流の促進
取組の方向	◆ エリアや建物等のコンセプトに合ったパブリックスペースの多様な利活用の促進 (取組例) ・規制緩和や利活用ルールの特典化（公共空間の占有許可基準の緩和や公開空地活用のルールの明確化の検討など）	
	◆ 柔軟かつ持続可能な利活用を実現する仕組みや体制の構築と情報発信 (取組例) ・まちづくりのプレイヤーの発掘・育成（社会実験等の取組を通じた取組） ・運営主体の資金確保（広告等による収益を得られる仕組みの検討） ・市内外への積極的な情報発信（機運醸成やプレイヤー発掘の視点）	
3-②		雪という札幌の個性を生かした、パブリックスペースの冬の利活用の促進
取組の方向	◆ 冬季の屋外空間や屋内空間の柔軟な利活用 (取組例) ・歩道に面した屋内や半屋内の広場、地下空間や屋内の公開空地等の利活用の促進 ・雪を活かした特徴的なイベント実施等の促進	
3-③		限られた道路空間の運用の全体最適化
取組の方向	◆ 限られた道路空間の効果的・効率的な運用 (取組例) ・時間帯別の利用ニーズに応じたタイムシェアの取組など	
3-④		関連分野と連携した取組
取組の方向	◆ 健康（ウェルネス）や脱炭素（エネルギー）施策等への波及 (取組例) ・来街者の歩行数増加による健康増進 ・公共交通の利用促進や交通の円滑化等による二酸化炭素排出量の削減 など	

### 3 目標の実現に向けた基本方針等（案）

#### (3) 重点戦略における課題認識と論点 【論点1】

【重点戦略1】 札幌都心ならではの「魅力的なストリートの形成」		
項目	課題認識	論点
象徴的なストリートの形成	・都心の回遊の基軸となり、札幌都心を来街者に印象付けるシンボルストリートの形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・更なる魅力化を図るべき通り（骨格軸等）</li> <li>・四季の変化を感じられるストリートとして必要な設え</li> </ul>
中通りの魅力化	・中通りならではの魅力化による界索性や奥行きへの創出	・中通りに求められる機能と魅力創出の考え方

【重点戦略2】 都心のまちづくりを支える「機能的な交通環境の構築」		
項目	課題認識	論点
地上・地下の重層的な歩行者ネットワーク	・地下ネットワークは積雪寒冷地にとって重要である一方、費用対効果の観点から事業実現性に課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地上と地下のそれぞれの役割を踏まえた検討</li> <li>・官民連携等による効果的な取組 など</li> </ul>
北海道新幹線札幌延伸を見据えた施策	・新幹線の延伸による効果を、都心においても最大限発揮することが重要	・乗客を都心の各所へ導いていくために必要な取組など
駐車施設等	<p>【駐車場】歩きたくなるまちづくりの推進には、駐車場などの交通施設全般の施策の検討も重要</p> <p>【荷さばき】2024問題（ドライバーの働き方改革、物流停滞の懸念等）への対応が求められる中、多くの商業施設が立地する都心における荷さばきの効率化は重要</p>	<p>【駐車場】歩きたくなるまちづくりの推進に向けた駐車場施策の方向性（施設配置のあり方等）</p> <p>【荷さばき】一連のプロセスの全体最適化に必要な取組（共同荷さばき場の整備誘導、館内物流体制の構築等）</p>

【重点戦略3】 多様な活動や交通環境を充実させる「戦略的なマネジメント」		
項目	課題認識	論点
冬季におけるパブリックスペースの利活用	・夏季と比べて、冬季はパブリックスペースの利用が落ち込む傾向があり、来街者が様々な活動を行える空間が少ない。	・雪などを生かした冬季ならではの空間活用の方法や必要な仕組み など

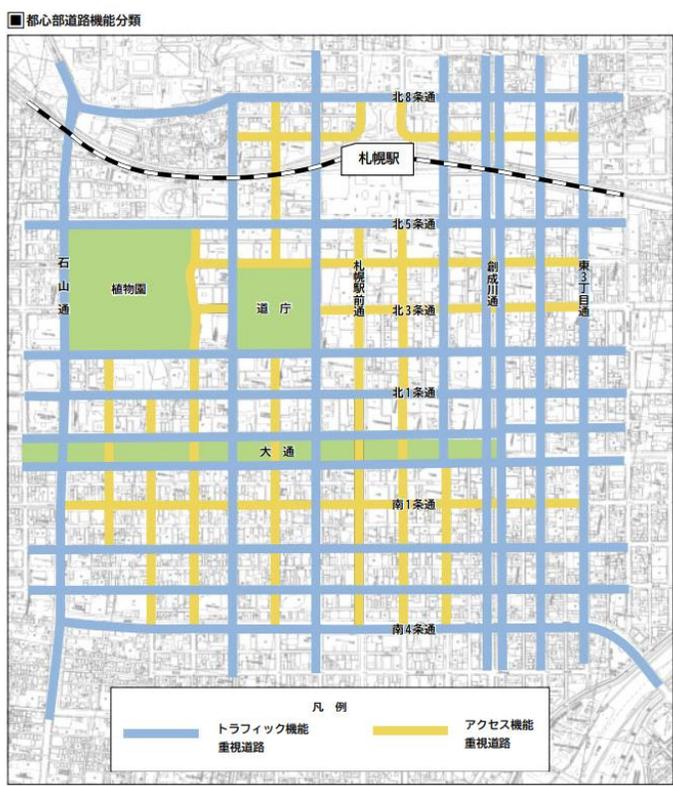
# 4 アクションレイヤーの検討に向けた視点

## (1) 自動車交通からみた道路機能の分類事例

- 目標の実現には、道路における歩行や滞在空間の拡充が重要となるが、一方で必要な自動車交通機能を確保する視点も重要である。
- 本計画におけるアクションレイヤー(P.12)の検討にあたり、自動車交通量等の状況を踏まえ、車両の走行空間としての機能重視する路線の再確認を行う。

【参考】さっぽろ都心交通計画(平成16年7月)

・平成16年策定の「さっぽろ都心交通計画」において、車両の走行空間としての機能(トラフィック機能)を重視する路線と、沿道建物への出入りと歩行者空間としての機能(アクセス機能)を重視する路線を分類している。



**「トラフィック機能」**：車両の走行空間としての機能

**「アクセス機能」**：沿道建物への出入りと歩行者空間としての機能



トラフィック機能重視道路イメージ図



アクセス機能重視道路イメージ図

【図表】 トラフィック機能、アクセス機能のイメージ図と概要

【図】 都心部道路機能分類図  
(平成16年時点で整理したもの)

(さっぽろ都心交通計画より抜粋)

# 4 アクションレイヤーの検討に向けた視点

## (2) 歩行者から見た道路機能の分類事例

- 国土交通省「ストリートデザインガイドラインver2.0」において、街路の機能分担を「リンク(通行)機能」及び「プレイス(滞在)機能」の2軸で分類する手法(リンク&プレイス)が紹介されている。
- 本計画のアクションレイヤーの検討にあたり、この分類方法を参考にするとともに、札幌特有の季節による歩行や滞在環境の違いも踏まえて評価する。(評価イメージは次頁参照)

### リンク (通行) 機能

人やモノが移動するための機能



公共交通・乗用車・貨物車・自転車・徒歩等で目的地までの移動が行われる

### プレイス (滞在) 機能

多様な活動を繰り広げる場としての機能

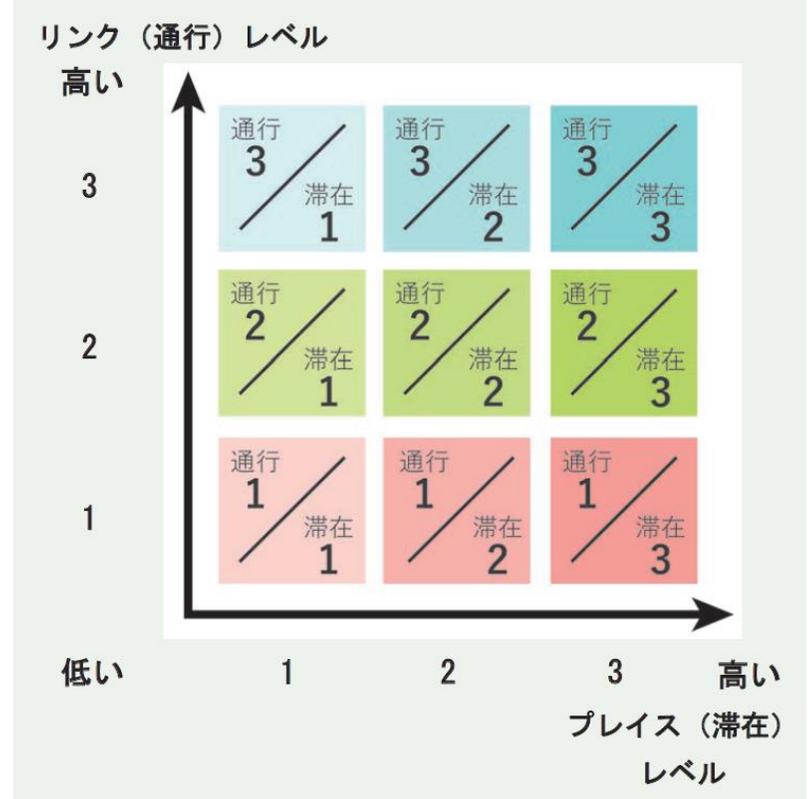


立ち止まる・座る・食べる・遊ぶ・買い物をする・パフォーマンスを行う等の活動が行われる

▲ ▲

アクセス環境整備：人々の乗降や荷さばきのための駐停車等

【図表】 通行機能、滞在機能、アクセス環境整備の概要



【図表】 通行機能と滞在機能によるストリートの分類(例)

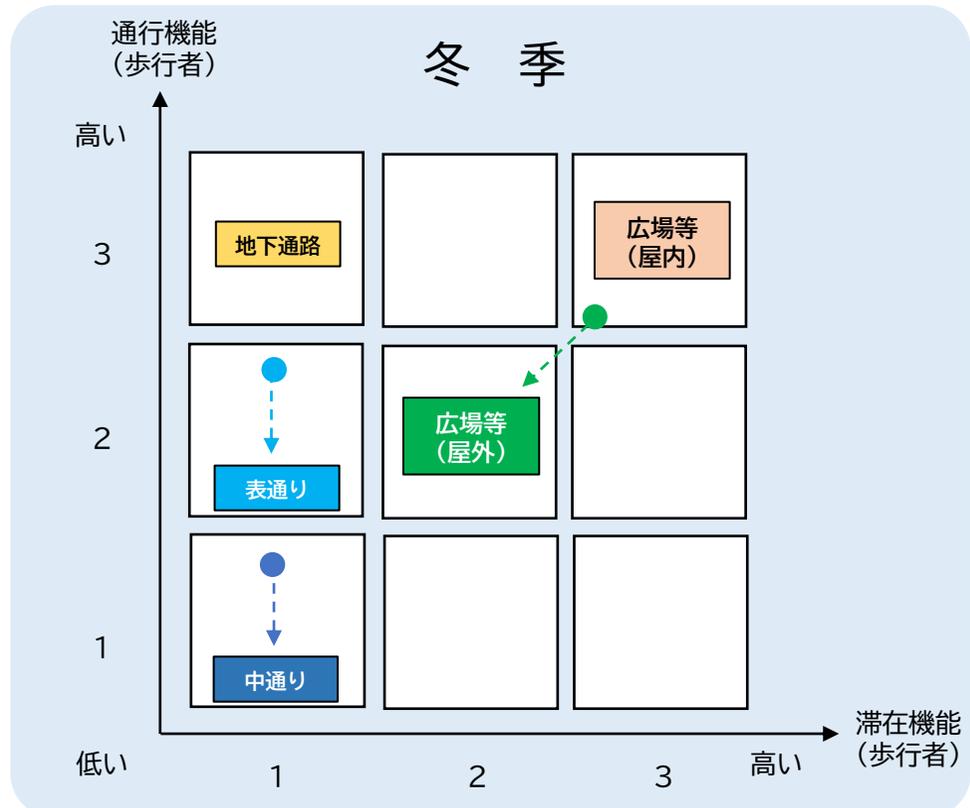
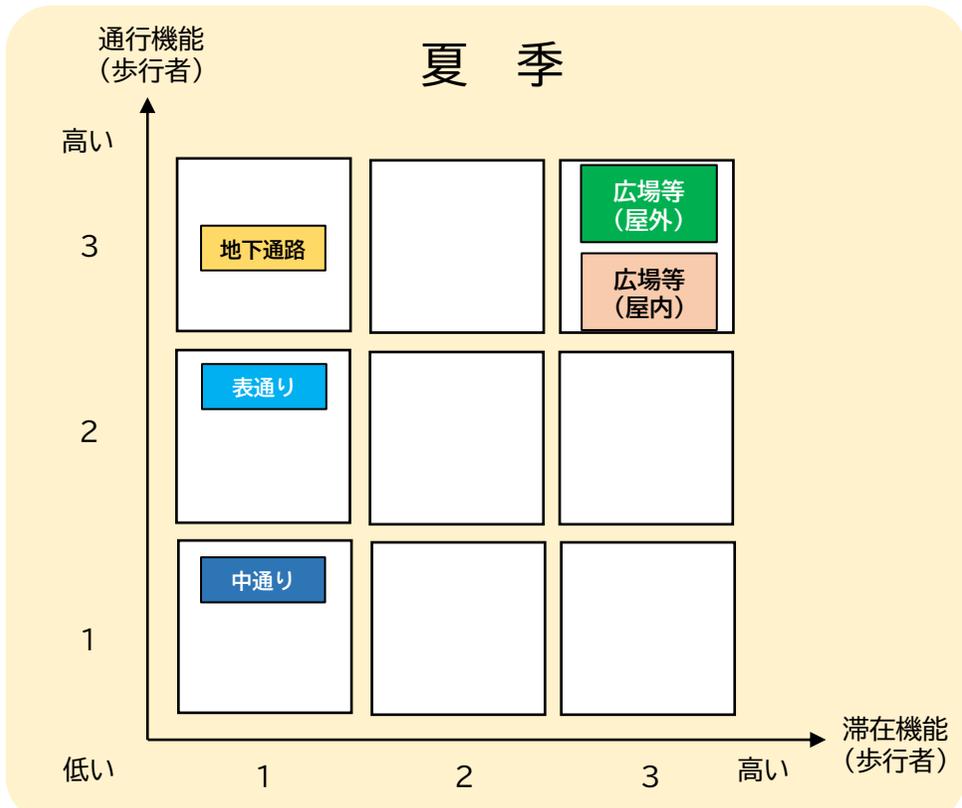
出典:国土交通省 都市局・道路局「ストリートデザインガイドラインver2.0」

# 4 アクションレイヤーの検討に向けた視点

## (3) 歩行者から見た道路機能の分類イメージ

○ 本計画のアクションレイヤーの検討にあたり、札幌特有の季節による歩行環境の変化を踏まえて評価を行う。

【凡例】 歩行者から見た空間の分類(活動イメージはP14参照)



◆ 評価結果 (例)

【通行機能】 地下通路や広場等(屋内)は季節を問わず通行機能が高い。一方、表通り、中通り、広場等(屋外)は夏季に比べ冬季は低下する。  
 【滞在機能】 夏季は広場等(屋外、屋内とも)の滞在機能が高いが広場等(屋外)は夏季に比べ冬季は低下する。



## 本日、ご議論いただきたいこと（再掲）

【論点1】 目標、基本方針、重点戦略等について・・・P.13～19

- ① 重点戦略における課題認識と論点への意見(P.19)
- ② その他、全般への意見(特に札幌都心特有の視点)

【論点2】 アクションレイヤーの検討に向けた視点について・・・P.20～23

- ① アクションレイヤーの検討に向けた課題認識と論点への意見(P.23)
- ② その他、全般への意見(特に札幌都心特有の視点)

# 參考資料

## (1) 国土交通省「ストリートデザインガイドライン」で示す意義【参考】

- ✓ 国土交通省では、「ストリートデザインガイドライン」において、人中心のウォークブルな公共空間の必要性と効果、都市における、人が心地良く感じる道路空間の形成やデザイン性の必要性を掲げ、以下の視点が重要としている。
  - 街路(路面上)だけでなく、沿道等も含めた空間全体をストリートとして官民の公共空間を一体的に捉えて、デザインを考える。
  - 歩きやすい環境整備のみならず、沿道の民地も含めたトータルなデザインや、滞在・交流といった、ストリートの価値を考える。



**Walkable**  
歩きたくなる

**Eye level**  
まちに開かれた1階

**Diversity**  
多様な人の多様な  
用途、使い方

**Open**  
開かれた空間が  
心地よい

## (2) (仮称) 札幌市ウォーカブルビジョンの意義・目的【参考】

- ✓ 札幌市では、産学官民協働によりウォーカブルシティ推進を図るため、「(仮称)札幌市ウォーカブルビジョン」を令和7年度末に策定予定
- ✓ ビジョンでは、ウォーカブル推進の意義・目的として、「健康寿命の延伸」、「安全・安心な歩行環境」、「交流・賑わいの創出」を3つを掲げる。
- ✓ 都心まちづくり計画においては、ビジョンで掲げる意義・目的も踏まえつつ、本検討部会では、目標2の「四季を通じて歩きたくなる都心」を具体化する。

# SAPPORO

## 札幌市におけるウォーカブル推進の意義・目的

- ・ウォーカブルシティ(居心地がよく歩きたくなるまち)推進の目的は様々あるが、都市によって力点が異なる
- ・札幌市では特に「健康」「安全・安心」「交流・にぎわい」の観点から推進する必要があると考えている

### ■健康寿命の延伸

- ・ 札幌市の健康寿命は他の政令指定都市と比較して低位  
※20政令市中17位
- ・ 積雪寒冷地であり、冬期間の外出が減少する傾向  
※秋期と比較して冬期の外出率が約16%減少

⇒歩きたくなる、外出したくなるまちづくりにより、市民の健康促進を図る

### ■安全・安心な歩行環境

- ・ 道内の令和5年度交通事故による死者数の内、約40%が歩行者
- ・ 誰もが円滑に移動できる環境(ユニバーサル社会)の必要性
- ・ 「こどもまんなかまちづくり」など、こどものための生活空間を形成する機運の高まり

⇒歩きたくなるまちづくりにより、誰もが安全・安心に移動できる歩行環境をつくる

### ■交流・にぎわいの創出

- ・ 拠点における商業機能の空洞化
- ・ 地域コミュニティの希薄化
- ・ 観光戦略としての消費額の大きい海外客誘致の必要性  
※第2次札幌市観光まちづくりプラン

⇒地域の特性に応じた歩きたくなるまちづくりにより、市民とともに交流・にぎわいを創出する

(第1回札幌市ウォーカブルビジョン策定検討委員会資料より抜粋)

## (3) 活動（アクティビティ）の視点

- ✓ 都市空間における活動は「必要活動」「任意活動」「社会活動」の3区分があり、社会活動は「地域生活活動」「地域文化活動」「表現活動」の3つに区分することができる（参考：国土交通省「ストリートデザインガイドラインver2.0」）
- ✓ アクティビティのタイプとその内容・具体例は下表を参照。

アクティビティタイプ	内容	具体例
必要活動	沿道等の目的地で目的を果たすための通行や立ち止まり	通勤、バス待ち、通行時の休憩、買い物
任意活動	来街者一人であっても楽しめる、地域やストリート景観、自然、雰囲気を感じながらの遊歩、運動、滞在	散歩、まち歩き、ランニング、写真撮影
社会活動	ストリート上に複数の利用者が存在することによるコミュニケーションや出会いに基づく活動	遊び、来街者と住民の会話、生活風景を眺める
地域生活活動	社会活動のうち、特に沿道コミュニティの住民・店主等による日常的慣習としての活動	清掃、挨拶、井戸端会議、植栽の世話、見回り
地域文化活動	社会活動のうち、特に地域性のある祭り等、地域価値を高める目的で組織的に行う活動	祭り、街路市、打ち水、フリーマーケット
表現活動	社会活動のうち、特に芸術的・政治的な表現・言論、エンターテインメント性の高い活動	演奏、演説、大道芸、フラッシュモブ、パレード、募金

出典：ストリートデザイン・マネジメント（出口敦・三浦詩乃・中野卓 編著）に一部加筆  
 （地域生活活動・地域文化活動・表現活動が社会活動に含まれるものであることがわかりやすいように本ガイドラインでは表現を見直し）

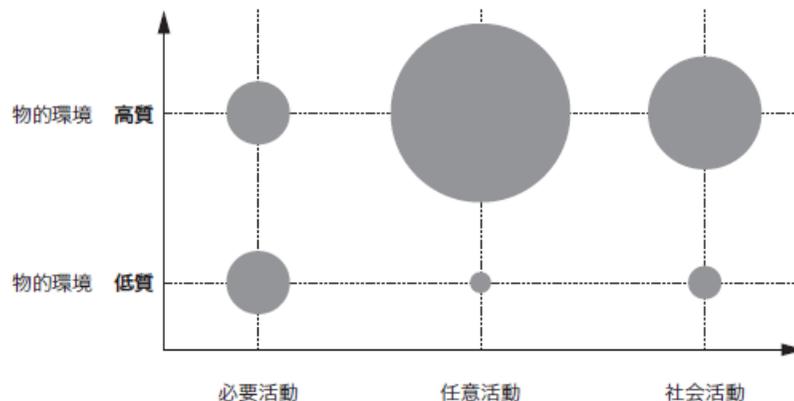


出典：西村亮彦都市研究所（Humanscape Urbanism）資料

【図表】 アクティビティのタイプ

### 参考 | 必要活動・任意活動・社会活動と物的環境の関係

任意活動や社会活動は、物的環境が低質だと発生しにくいと解釈されている。



出典：人間の街 公共空間のデザイン（ヤン・ゲール）

出典：国土交通省 都市局・道路局「ストリートデザインガイドラインver2.0」